

小 島 蓉 子 著（日本女子大教授）

国際障害者福祉 これからのわが国の障害者福祉

上田 敏（東京大学）

著者はすでに御紹介するまでもないわが国の社会リハビリテーションの第一人者である。昨年の国際障害者年にはわが国を代表して、国連日本代表代理として障害者問題を中心とする人権問題について大きな活躍をされたが、その多忙の合間を縫って、この数年間に書き溜めた多数の論文に全面的に加筆・改訂してこの書をまとめられたときいている。このような超人的な活動の産物ではあるが、障害者福祉の諸問題を国際的な視野でとらえなおすという点でよくまとまった概説書となっている。

内容は5章に分れ、第1章「ライフ・ステージからみた障害者の人権

保障とその課題」はいわば全体への導入として、総論的に問題を展望している。第2章「障害者の社会自立と地域のとりくみ」は障害者の地域ケア・地域リハビリテーションを種々の角度から論じており、特にアメリカの「自立生活」運動とそのモニターの紹介と障害学生のための大学教育とを論じた2つの節はこれからの総合的なリハビリテーションを考える上での必読文献ともいうべきものである。第3章「障害者に対する就労援助」は職業リハビリテーションの諸問題を中心に特に重度障害者の保護雇用について論じている。第4章「障害者福祉の国際的課題」

は、欧米諸国の障害者政策の紹介、リハビリテーションにおける国際協力、世界リハビリテーション会議のあゆみ、国際障害者年における各国のとりくみなどが論じられている。第5章「障害者処遇史と理論形成の歩み」は障害者福祉処遇、それに従事する専門職（RSW）、障害者福祉論それぞれの形成史の検討であり興味深い問題提起がなされている。

最後に著者はこのたび国際結婚をされ、国際経済を研究する夫君とともにヨーコ・K. カツセルズとしての生活を始められたが、わが国での活動はこれまで通り小島蓉子として継続されとのことである。一層の御活躍を期待したい。

（A 5，頁354，1982，¥3,000，誠信書房刊）